

令和7年度 九州地方ダム等管理フォローアップ委員会

議 事 概 要

1. 日 時：令和7年11月21日（金）14:00～17:00

2. 開催方法：対面及びWEB形式

3. 出席者：小松委員長、乾委員、嬉委員、大矢野委員、玉泉委員、楠田委員、古賀委員、杉尾委員、馬場委員、江口委員（WEB）、矢野委員（WEB）

4. 定期報告書（案）の意見聴取結果

鶴田ダム、緑川ダムの定期報告書（案）について了承された。委員から頂いた意見等は、趣旨を踏まえて定期報告書に反映し、今後の管理に活かすこととする。

（1）鶴田ダム定期報告書（案）に関するご意見等

（委員）各生物調査結果が年度別で示されているが、調査結果にはある程度ばらつきが出ると思われる。科学的に説明可能なデータを取って、生態系の状況を示す必要がある。

（事務局）今後の調査や調査結果の評価にあたって留意していきたい。

（委員）ボタンウキクサの処分には苦労していると思うが、どのような状況か。

（事務局）特定外来生物のため運搬に制約があることから、空き地に山積みして乾燥させた後に処理している。乾燥させる時に臭いが発生するため、釣り等で来られた方などから苦情が出ることもある。

（委員）鶴田ダムは河川の中流域に位置しているダムである。多くのダムは河川の上流域に位置していることが多いが、中流域に位置しているダムの特色はあるか。

（事務局）川内川流域では、上流伊佐市を中心に稲作が有名であり、右岸側には畜産系の工場もある。その辺りの排水も入ってくるため、貯水池内の栄養塩類濃度が高い傾向にあるのが特徴である。

（委員）緊急放流等に関する住民対応の取り組みについて、鶴田ダムは非常に先駆的である。九州内の他ダムでは住民説明段階のところもあるため、鶴田ダムの事例は参考にな

る。

(事務局) 他ダムでも同様の取り組みを進めており、今年は耶馬渓ダムでも開始した。いずれは全ダムに広がるようにしていきたい。

(委員) 鶴田ダムは、河川協力団体であるNPO法人の方が見学ツアーのガイドとして活動するなど、地域住民と連携した活動が非常にうまくいっている事例だと思う。資料に出てくるNPO法人が河川協力団体であることを示した方が良い。

(事務局) 承知した。

(委員) 水源地域の人口について、高齢化の進行には少子化や産業構造の変化の影響を受けているため、表現を修正した方が良い。

(事務局) 承知した。

(2) 緑川ダム定期報告書（案）に関するご意見等

(委員) 事前放流によって水位を下げている間は発電をしているのか。

(事務局) 事前放流は $55\text{m}^3/\text{s}$ 以下で、発電放流により実施している。

(委員) 網場で捕捉された流木について、配布した残りは産業廃棄物になるのか。処分するにも費用が掛かるため、何か利用のアイデアがあると良い。

(事務局) 巡視で確認できる範囲では、粉々になつたりしており使えない端材が多い。現状では処理効率の都合上、配布した残りは産業廃棄物として処理することにしている。

(委員) シカが九州全域に広がっているため、緑川ダム周辺でも、今後、食害等が出てくることが予想される。本州ではシカ害が非常に多く、ダム周辺での対策事例も多い。事前にどういった対策がされているか調べておくと良い。

(事務局) 現状、ダム周辺でのシカ害は発生していないと認識している。地元にヒアリングした上で、先進事例を踏まえつつ取り組んでいきたい。

(委員) 流入水温と放流水温に大きな差がないが、意図的なものか。夏季には水温が低い層から放流すれば、下流河川の温暖化が抑制できるのではないか。

(事務局) 意図的なものではない。

(委員) 水源地域の人口について、高齢化の進行には少子化や産業構造の変化の影響を受けているため、表現を修正した方が良い。

(事務局) 承知した。

5. 環境モニタリング部会の実施状況報告結果

阿蘇立野ダムモニタリング部会、大分川ダムモニタリング部会の実施状況について報告した。大分川ダムについては、試験湛水の状況と計測モニタリング部会の設置について併せて報告し承認を得た。

(1) 阿蘇立野ダム環境モニタリング部会の実施状況に関するご意見等

(委 員) 令和7年8月出水時の写真に流木・塵芥が多く写っているが、流木・塵芥による常用洪水吐の閉塞等は生じていないか。

(事務局) 閉塞等は生じなかった。

(委 員) 令和7年8月出水により土砂堆積は確認されたものの放流への阻害は生じていないということだが、堆積土砂はどのような状況か。流水型ダムの場合、土砂堆積が問題になるため貴重な事例である。

(事務局) 出水前後で多少土砂が貯まった程度であった。

(委 員) 猛禽類の調査はクマタカのみを対象として調査したのか、それともサシバなど、他の猛禽類の調査も実施したのか。

(事務局) 資料にはモニタリング対象のクマタカの調査結果のみを載せているが、鳥類調査はその他猛禽類を含めて実施している。

(2) 大分川ダム環境モニタリング部会の実施状況に関するご意見等

※特にご意見等なし

(3) 大分川ダム 試験湛水の状況と計測モニタリング部会の設置に関するご意見等

(委 員) 試験湛水の方法について、今後は通常の施設運用の中でサーチャージ水位まで貯めていくことだった。大分川ダムに限らず、今後は他ダムにおいてもこの方法を前提として試験湛水を行う考え方か。

(事務局) 大分川ダムとしては、これまで7回の試験湛水の実績から安全性に問題ないという評価をしているものの、実施要領（案）に定められているサーチャージ水位まで貯めることは出来ていないことから、今後は通常運用の中で安全性確認を行う方針。今後の他ダムについては、引き続き実施要領（案）に基づき、ダム毎に試験湛水計画を立案するものと考えている。

(委 員) 試験湛水方法の変更はやむを得ない措置だと思うが、通常の施設運用の中でサーチャージ水位まで貯めるとなると、計画洪水クラスの降雨がないと達成しないのではないか。

(事務局) ご指摘の通りだが、試験湛水が長期化していることで、下流河川やダム利活用面での課題が顕在化しているため、今回の方針で進めている。今後は、計測モニタリング部会において、安全性確認をおこなっていきたい。

(委 員) モニタリング調査は令和8年から令和10年までの3ヵ年実施との説明があったが、調査期間は湛水状況によって変わる可能性があるのか。

(事務局) 水位状況を見つつ、大分川ダム環境モニタリング委員会にて学識者のご意見を聞きながら柔軟に対応していく。

6. 年次報告書の報告結果

令和6年の管理及び運用状況をとりまとめた年次報告書について事務局より報告した。

(1) 令和6年の年次報告に関するご意見等

(委 員) 気象の変化として、24時間最大降水量が変わってきたというような説明があった。降水量だけでなく気温の変化も冒頭に載せてほしいと思う。気温が変化した結果、降水量等の傾向も変わってきている、といった流れにした方がよいのではないか。

(事務局) 承知した。今後は気温についても整理し、とりまとめをさせて頂きたい。